

## 第4回（通算107回）理事会・拡大執行委員会 議事録

- 1 開催年月日及び時刻 2025年6月4日（水）13:00-16:40
- 2 開催場所 東京都文京区本郷七丁目2番2号 当法人事務所会議室
- 3 出席理事数（総理事数20名） 山中 宏二（理事長／人材推薦委員会委員長）、加藤 忠史（副理事長）、合田 裕紀子（副理事長／国際連携委員会委員長）、花川 隆（総務理事／倫理委員会委員長）、村山 正宜（会計理事）、田中 謙二（人財育成・他学会連携担当理事）、池田（村松） 里衣子（神経科学ニュース編集委員会委員長）、磯村 宜和、岡部 繁男（第47回大会長）、久保 郁、林 康紀（脳科学辞典編集委員会委員長）、平井 宏和（第50回大会長）、藤山 文乃（第48回大会長）、宮田 麻理子（生物科学連合担当委員会委員長）、柳沢 正史、柚崎 通介（法人化推進委員会委員長）、渡部 文子（ダイバーシティ対応委員会委員長）  
(出席理事数：17名、全理事はWeb会議システムにより出席)
- 4 議長 山中 宏二
- 5 出席監事名（総監事数2名） 富田 泰輔（出席監事数：1名）
- 6 委員長等出席者 大塚 稔久（大会委員会委員長）、國松 淳（理事長補佐／JNS創立50周年記念行事WG委員長）、筒井 健一郎（理事長補佐）、吉本 潤一郎（理事長補佐／情報基盤整備委員会委員長）、山下 歩（情報基盤整備委員会委員長代理）、奥村 哲（ブレインビー委員会委員長）、上口 裕之（第49回大会長）、上川内あづさ（奨励賞選考委員会委員長）、竹村 文（動物実験委員会委員長）、中島 欽一（アルトマン賞選考委員会委員長）、尾藤 晴彦（将来計画委員会 日中韓WG委員長）、Thomas J. McHugh (NSR委員会委員長)、松田 哲也（アドボカシー委員会委員長／利益相反委員会委員長）、松元 健二（アウトリーチ委員会委員長／産学連携推進委員会委員長）、宮川 剛（将来計画委員会委員長）
- 7 陪席者（新理事） 大隅 典子、河崎 洋志、竹本 さやか、笠井 清登、林 朗子
- 8 事務局等出席者 江口 麻耶、窪寺 明子、三瓶 あゆ子、地主 志保、吉田 優子
- 9 欠席者等 後藤 由紀（監事）、岡本 仁（理事）、小林 和人（理事）、高橋 良輔（理事）、掛川 渉（ホームページ委員会委員長）、勝野 雅央（学術多様性委員会委員長）、大木 研一（新理事）、黒田 公美（新理事）
- 10 報告事項
- 第1号報告 前回の理事会議事録の微修正について
  - 第2号報告 総務報告
  - 第3号報告 2025年度 事業計画／収支予算書
  - 第4号報告 新体制の委員長名簿と引き継ぎについて
  - 第5号報告 年間スケジュールの固定化
  - 第6号報告 アジアオセアニア神経科学連合（FAONS）報告

第 7 号報告	NEURO2024（2024 年）最終決算報告
第 8 号報告	第 48 回大会（2025 年）準備報告
第 9 号報告	NEURO2026（2026 年）準備報告
第 10 号報告	第 50 回大会（2027 年）準備報告
第 11 号報告	Neuroscience Research 報告
第 12 号報告	JNS 創立 50 周年記念行事 WG 準備報告
<b>11 審議事項</b>	
第 1 号議案	2024 年度 事業報告
第 2 号議案	2024 年度 収支決算案
第 3 号議案	第 52 回大会（2029 年）大会長について
第 4 号議案	奨励賞選考委員の半数交代について
第 5 号議案	評議員選挙 選挙管理委員の選定／実施スケジュール
第 6 号議案	選出細則 第 5 条（選挙管理委員）の改訂
第 7 号議案	評議員の欠員補充について
第 8 号議案	学術ドメイン 未登録者のデータの扱いについて
第 9 号議案	中国神経科学学会との覚書締結
第 10 号議案	倫理指針の改訂
第 11 号議案	委員会規程・細則の制定について
第 12 号議案	物品購入・費用決裁規程
第 13 号議案	監事 2 名の再任
第 14 号議案	定時社員総会開催の件
<b>12 各委員会・WG の活動報告</b>	
第 1 号報告	奨励賞選考委員会報告
第 2 号報告	アルトマン賞選考委員会報告
第 3 号報告	人材推薦委員会報告
第 4 号報告	将来計画委員会報告
第 5 号報告	将来計画委員会 日中韓 WG 報告
第 6 号報告	人財育成 WG 報告
第 7 号報告	大会委員会報告
第 8 号報告	国際連携委員会報告
第 9 号報告	情報基盤整備委員会報告
第 10 号報告	神経科学ニュース編集委員会報告
第 11 号報告	ホームページ委員会報告
第 12 号報告	アウトリーチ委員会報告
第 13 号報告	産学連携推進委員会報告
第 14 号報告	アドボカシー委員会報告
第 15 号報告	利益相反委員会報告
第 16 号報告	脳科学辞典編集委員会報告

第 17 号報告	学術多様性委員会報告
第 18 号報告	ダイバーシティ対応委員会報告
第 19 号報告	倫理委員会報告
第 20 号報告	動物実験委員会報告
第 21 号報告	ブレインビー委員会報告
第 22 号報告	生物科学学会連合担当委員会報告
第 23 号報告	脳科学関連学会連合担当委員会報告

### 13 議事の経過の要領及び結果

代表理事中山宏二は、定刻に議長席につき、Web 回線及び Web 会議用装置からなる Web 会議システムを用いて本理事会を開催し、開会を宣し、上記のとおり定足数にたる理事の出席があったので、本理事会は適法に成立した旨を述べた。また、WEB 会議システムにより、出席者の音声が同時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同等に適時的確な意見表明が互いにできる状態であることを確認し、議案の審議に入った。

#### 【報告事項】

##### 第 1 号報告 前回の理事会議事録の微修正について

中山宏二理事長から、前回の理事会議事録（2025 年 1 月 31 日付でメール審議により理事会承認済み）につき、報告事項に漏れていた部分の追記を行ったが、決定事項等の内容自体には変更はない旨の報告があった。英語版は何か修正希望があれば 6 月 10 日までに事務局に連絡をするよう要請があった。特にない場合にはこのままホームページに掲載予定であることが説明された。

##### 第 2 号報告 総務報告

花川隆総務理事から、会員構成や会員数の推移、協賛後援名義に関する報告があった。会員数は過去最大に増加しているが、会員種別のうち正会員だけを見ると減少傾向であることが報告された。学術ドメインの未登録者については審議事項として議論する予定である旨の説明が行われた。

##### 第 3 号報告 2025 年度 事業計画／収支予算書

中山宏二理事長より、2025 年度の事業計画書と収支予算書が示された。なお、どちらも定款に従い 3 月末までにメール審議により理事会承認を得ている旨の説明があった。

##### 第 4 号報告 新体制の委員長名簿と引き継ぎについて

中山宏二理事長から、6 月開催予定の定時社員総会で新理事の就任が承認され次第、新体制による学会運営が開始されることから、現状での各委員会委員長の案が示された。また、新旧委員長間で適宜引き継ぎを行うよう要請があった。

##### 第 5 号報告 年間スケジュールの固定化

中山宏二理事長より、学会の定時理事会や定時総会は、法人法や定款で定められた時期に開催する必要があることから、時期をできる限り固定化する方針であることが説明された。

##### 第 6 号報告 アジアオセアニア神経科学連合（FAONS）報告

筒井健一郎理事長補佐より FAONS の活動報告が行われた。CJK と FAONS の役割の違いに関する質問があった。CJK は、中国・日本・韓国の三国の神経科学学会間の連携を推進することを目的としている一方で、FAONS は、アジアオセアニア地域の神経科学諸団体の連携と、とりわけ、これらの

なかでも経済的に発展途上にある国・地域の神経科学の発展に寄与することを目指しており、それぞれの役割の違いとなっている旨の説明があった。

第7号報告 NEURO2024（2024年）最終決算報告

岡部繁男大会長より、最終の決算報告が行われた。収支均衡決算となり、法人税や消費税も最低限の納税となった旨の報告があった。

第8号報告 第48回大会（2025年）準備報告

藤山文乃大会長より、第48回大会（2025年新潟）の準備状況の報告があった。一般演題の登録数や事前参加登録数は目標以上に多くの登録があった一方で、パッケージスポンサーとランチョンセミナー、機器展示などの協賛に苦戦したが、最終的に目標に達したことが報告された。

第9号報告 NEURO2026（2026年）準備報告

上口裕之大会長から、NEURO2026（第49回日本神経科学大会、第69回日本神経化学大会、第34回日本神経回路学会大会の合同大会）の準備状況が報告された。プレナリー講演に続き、特別講演、教育講演、Brain Prize Lecture の演者が決定したことや、プログラム委員や実行委員等の大会組織が決まつたことなどが報告された。

第10号報告 第50回大会（2027年）準備報告

平井宏和大会長から、第50回大会（2027年幕張）の準備報告が行われた。第51回大会（2028年福岡）と2年連続契約で大会運営事務局の委託先業者を公募し、（株）エー・イー企画に決定した旨の報告があった。

第11号報告 Neuroscience Research 報告

Thomas J. McHugh 編集主幹より、2025年 Neuroscience Research 論文賞受賞者の決定、第48回日本神経科学大会における NSR Best 論文賞受賞講演と Elsevier/NSR symposium について報告された。Neuroscience Research 発行に関し、2024年および2025年に投稿された論文の査読審査実績や特集号発行実績について報告が行われた。Open Access 化によって減少した投稿数にあまり変動はないが、日本からの投稿の割合減少はさほど見られず、採択数においては多少の増加傾向がみられる。さらに Neuroscience Research を活性化するためには、JNS 会員からの投稿が不可欠との見解が示された。その他、2025年以降の活動計画などが示された。

第12号報告 JNS 創立 50周年記念行事 WG 準備報告

國松淳委員長より、JNS 創立 50周年記念イベントの準備状況が報告された。第48回大会（新潟）に向け、記念シンポジウム、アート展示、一般向けイベント等の準備を進めていることが説明された。

【審議事項】

第1号議案 2024年度 事業報告

中山宏二理事長より、2024年度の事業報告書が示され、議決権の過半数を以って可決承認した。

第2号議案 2024年度 収支決算案

村山正宜会計理事から、2024年度の収支決算と貸借対照表の報告があり、議決権の過半数を以って可決承認した。

第3号議案 第52回大会（2029年）大会長について

中山理事長は、第 52 回大会（2029 年）の大会長について、花川隆先生（京都大学）を選定したい旨を述べ、議場に諮ったところ、議決権の過半数を以って可決承認した。

第 4 号議案 奨励賞選考委員の半数交代について

人材推薦委員会の中山宏二委員長より、奨励賞選考委員の選考委員 8 名のうち 4 名が 2025 年の新潟大会終了後に任期満了に、また継続委員のうち 1 名が退職に伴い辞任を希望したため、新たに 5 名の委員を選任する必要がある旨の説明があった。継続委員の中から新選考委員長として山末英典先生（浜松医科大学）を、新規委員に久保郁先生（理化学研究所）、杉山（矢崎）陽子先生（OIST）、永井義隆先生（近畿大学）、山下貴之先生（藤田医科大学）、村山正宜先生（理化学研究所）を選任したい旨を述べ、議場に諮ったところ、議決権の過半数を以って可決承認した。

第 5 号議案 評議員選挙 選挙管理委員の選定／実施スケジュール

中山理事長は、次期評議員選出のための選挙に向け、選挙管理委員を選定し、実施スケジュールを決定する必要があることを述べた。選挙管理委員会の委員長として南部篤先生（生理学研究所）、委員として畠中伸彦先生（愛知学院大学）、知見聰美先生（生理学研究所）を選定したい旨を述べ、議場に諮ったところ、議決権の過半数を以って可決承認した。また、投票期間と結果確認日を以下のように提案したところ、議決権の過半数を以って可決承認した。

評議員選挙投票期間：2025 年 12 月 19 日～2026 年 1 月 8 日

投票結果確認日：2026 年 1 月 3 週目

第 6 号議案 選出細則 第 5 条（選挙管理委員）の改訂

中山理事長は、「評議員及び役員選出等細則」第 5 条 3 項、4 項、5 項につき、条件を満たす候補者の数が少なく、人選が困難になりがちなため、改訂したい旨を述べ、改定案を議場に諮ったところ、議決権の過半数を以って可決承認した。

第 7 号議案 評議員の欠員補充について

中山理事長から、評議員に欠員が出たため補充する必要があるとの説明があった。今回が法人化後初の欠員補充となるので、今後のための内規案が示され、議決権の過半数を以って可決承認した。

第 8 号議案 学術ドメイン 未登録者のデータの扱いについて

花川隆総務理事より、これから開催予定の評議員選挙に向けて、まだ学術ドメインを登録していない人の扱いを決めたいとの説明があった。学術ドメイン未登録者のうち、旧パネル 1 をドメイン A、パネル 2 をドメイン B、パネル 3 をドメイン C に自動的に振り分けた上で、従来のパネル 4 「その他の神経科学」については総務理事の判断で適切なドメインに振り分け、会員本人に通知し、理事会にて報告するという案が提示され、議場に諮ったところ、議決権の過半数を以って可決承認した。

第 9 号議案 中国神経科学学会との覚書締結

国際連携委員会の合田裕紀子委員長から、これまで慣例で行われてきた中国との間の国際交流（相互トラベルアワード、日中合同シンポジウム）を明文化し、覚書を締結したい旨が述べられた。提示された覚書案について議場に諮ったところ、議決権の過半数を以って可決承認した。

第 10 号議案 倫理指針の改訂

倫理委員会の花川隆委員長より、現行の倫理指針から非侵襲という文言を取り、「ヒトを対象とした脳・神経科学研究を倫理的に計画・実施するための指針」とした改訂案が示された。改訂する方針については議決権の過半数を以って可決承認された。細部の文言の修正を反映した最終版については

今後メール審議で決定するものとした。

#### 第 11 号議案 委員会規程・細則の制定について

花川隆総務理事から、一般社団法人化後初の理事会選に伴う委員会の解散・再編に向け、新旧委員会間での引き継ぎを円滑にするため、委員会ごとの役割や名称等、機能を明確にするよう、細則・規定の提案があった。細則については細部の文言に関する修正提案があり、継続審議となった。規定については原案通り議決権の過半数を以って可決承認した。

#### 第 12 号議案 物品購入・費用決裁規程

花川隆総務理事から、これまで慣例で処理してきた物品購入・費用決裁に関し、責任範囲を明確にし、事務処理業務の簡素化・迅速化を図るため、文書化したい旨の説明があった。原案通り議決権の過半数を以って可決承認した。

#### 第 13 号議案 監事 2 名の再任

中山理事長より、現在の監事の任期が 6 月の定時社員総会で終了となるため、次期の監事候補者を指名する必要があるとの説明があり、富田泰輔先生（東京大学）、後藤由紀先生（税理士）を選定したい旨を述べ、議場に諮ったところ、議決権の過半数を以って可決承認した。

#### 第 14 号議案 定時社員総会開催の件

中山理事長より、第 2 回定時社員総会の開催日時、場所、議案について以下の提案があり、全員一致を以って可決承認した。

日時：2025 年 6 月 27 日（金）午前 11:00-12:00

場所：日本神経科学学会事務局 東京都文京区本郷 7-2-2 本郷ビル 9 階（Web 参加推奨）

議案：

##### 【報告事項】

第 1 号報告 第 2 期 2024 年度（2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで）事業報告

第 2 号報告 第 3 期 2025 年度（2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日まで）事業計画及び収支予算

##### 【決議事項】

第 1 号議案 理事 20 名の選任について

第 2 号議案 監事 2 名の選任について

第 3 号議案 第 2 期 2024 年度（2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで）収支決算承認について

#### 【各委員会・WG の活動報告】

##### 第 1 号報告 奨励賞選考委員会報告

奨励賞選考委員会の上川内あづさ委員長より、2025 年度の奨励賞受賞候補者 5 名から NSR に論文投稿され、全員が授賞可とされたことが報告された。また、奨励賞広報の一環として、第 48 回大会（新潟）より新たに「奨励賞受賞者ポスター」コーナーの設置を行う予定である旨の報告があった。他に、学会内推薦の審査、時実優秀博士研究賞の選考などを行ったとの報告があった。新たに教育者を表彰するような賞があつてもいいのではという意見があり、学会として検討していくこととなった。

##### 第 2 号報告 アルトマン賞選考委員会報告

ジョセフ・アルトマン記念発達神経科学賞選考委員会の中島欽一委員長から、アルトマン賞の運営に関する報告が行われた。選考の結果、2025年の受賞者が無事に決定し、第48回大会（新潟）にて講演予定であることが報告された。

第3号報告 人材推薦委員会報告

人材推薦委員会の中山委員長から、引き続き各種研究助成や賞、各種委員、学会委員等に対して会員の推薦を行ったとの報告があった。今後も隨時、外部からの依頼や学会のニーズに対応して会員の推薦を行う目標が示された。

第4号報告 将来計画委員会報告

宮川剛委員長から、雇い止め問題についてのアンケートの結果を受けて各所への紹介や意見交換、議論を続いているとの報告があった。また、未来の学術振興構想とロードマップについて、脳科連等と連携しながら申請を検討しているとの報告が行われた。その他、第48回大会（新潟）においてもランチョン大討論会の開催を予定しているとの報告があった。

第5号報告 将来計画委員会 日中韓WG報告

尾藤晴彦委員長から、第3回CJK国際会議（2025年8月24日～27日、韓国）のプログラム内容の詳細について報告が行われた。第4回CJK国際会議（2027年7月20日～23日、幕張）の準備を平井大会長と連携しながら進めていくとの方針が述べられた。

第6号報告 人財育成WG報告

人財育成ワーキンググループの田中謙二委員長より、若手育成塾のサポートを行ったことなどが報告された。若手育成塾は若い人からの評判はよく、人気もあるが、主催側の負担も大きいことから、引き続き若手や大会執行部の負担を減らす工夫をしつつ続けていく必要性が指摘された。

第7号報告 大会委員会報告

大会委員会の大塚稔久委員長から、大会の協賛獲得の支援等を行ったとの報告があった。他に、次期大会委員会への引き継ぎ事項等が述べられた。

第8号報告 國際連携委員会報告

國際連携委員会の合田裕紀子委員長から、FENS、SfN、CNSとの相互トラベルアワードの実施状況が報告された他、SfNで開催予定のNetworking Eventについて紹介があった。また、CAN(Canadian Association for Neuroscience)との間で覚書を締結したことの報告があった。

第9号報告 情報基盤整備委員会報告

情報基盤整備委員会の吉本潤一郎委員長は途中退席により不在であったため、代わって山下歩委員より報告が行われた。BOTやクローリングによる過剰アクセスが原因と思われるホームページアクセスエラー対応等を行った他、SlackのNPO支援プログラムの申請が承認されたことが報告された。

第10号報告 神経科学ニュース編集委員会報告

神経科学ニュース編集委員会の村松里衣子委員長より、安定的に編集・発行作業を続けている旨の報告が行われた。今後も予定通り発刊を続けていく方針が述べられた。

第11号報告 ホームページ委員会報告

ホームページ委員会の掛川涉委員長は欠席により不在であったため、代わって中山理事長より報告が行われた。神経科学トピックスの査読や公開、SNS(X)利用による「神経科学速報」等を行ったことが報告された。また、引き続き神経科学トピックスへの投稿が少ないことから、寄稿するよう呼

びかけがあった。

#### 第 12 号報告 アウトリーチ委員会報告

松元健二委員長より、NEURO2024 福岡で行われた「脳科学の達人 2024」のアーカイブ化が完了した旨の報告があった。また、第 48 回大会（新潟）で開催を予定している「脳科学の達人 2025」は 10 周年の特別企画として準備中であることが報告された他、学会創立 50 周年記念とコラボして書籍化が決定したことが紹介された。

#### 第 13 号報告 産学連携推進委員会報告

松元健二委員長から、NEURO2024 福岡で行われた産学連携シンポジウムのアーカイブ化が完了したことが報告された。第 48 回大会（新潟）では、キャリアパスをテーマにしたシンポジウムを準備中である旨が述べられた。他に、応用脳科学コンソーシアムの開催支援を行ったとの報告があった。

#### 第 14 号報告 アドボカシー委員会報告

アドボカシー委員会の松田哲也委員長から、省庁・AMED 等と継続的に意見交換を行っているとの報告が行われた。ニューロテクノロジーに関する指針策定や脳科学関連の予算を安定化させるための対策について、脳科連や関係省庁とも相談しながら対応を検討中であるとの報告があった。

#### 第 15 号報告 利益相反委員会報告

利益相反委員会の松田哲也委員長より、引き続き役員の利益相反の確認を行う他、検討・確認するべき事項が発生した際に対応するとの予定が述べられた。利益相反指針については今期は語句修正などのみに留めたが、必要があれば次期委員会で検討するよう引き継ぎ予定であるという方針が述べられた。

#### 第 16 号報告 脳科学辞典編集委員会報告

脳科学辞典編集委員会の林康紀委員長から、用語の追加や執筆依頼を継続中であるとの報告が行われた。辞典の盗用が疑われる案件があり、委員会で対応したとの報告があった。

#### 第 17 号報告 学術多様性委員会報告

学術多様性委員会の勝野雅央委員長は欠席により不在であったため、代わって中山理事長より報告が行われた。第 48 回大会（新潟）で開催予定の基礎・臨床連携シンポジウム「脳神経科学研究における双方向性トランスレーショナルリサーチ」の紹介が行われた。

#### 第 18 号報告 ダイバーシティ対応委員会報告

ダイバーシティ対応委員会の渡部文子委員長から、男女共同参画学協会連絡会との連携状態の報告があった他、第 48 回大会（新潟）でランチタイムミニシンポジウムとして開催予定である「キャリア形成支援企画」の内容が紹介された。

#### 第 19 号報告 倫理委員会報告

第 10 号議案「倫理指針の改訂」で既に活動報告を兼ねて済ませていたことから、割愛された。

#### 第 20 号報告 動物実験委員会報告

動物実験委員会の竹村文委員長より、「靈長類を対象とした実験ガイドライン」のフォローとしてマカクザルユーザーを対象としたアンケートを実施し、今後の対応を検討したとの報告が行われた。今後はマーモセットユーザーにもアンケートを行うことを検討中であるとの方針が述べられた。

#### 第 21 号報告 ブレインビー委員会報告

ブレインビー委員会の奥村哲委員長から、2025 年度の第 12 回大会の実施状況等が報告された。受

験結果は昨年よりも好成績となり、日本代表となる選抜者は10名となったとの報告があった。他に、第48回大会（新潟）に向けた今後のスケジュールが示された。

第22号報告 生物科学学会連合担当委員会報告

生物科学連合担当委員会の宮田麻理子委員長は退席済みで不在であったことから、代わって山中理事長より報告が行われた。生科連定例会での議題の他、生科連の活動状況が報告された。

第23号報告 脳科学関連学会連合担当委員会報告

脳科学関連学会連合担当委員会の山中宏二委員長より、脳科連の活動状況に関する報告が行われた。今後も脳科連と連携しつつ、問題に対処していく目標が示された。

Web会議システムを使用した当該理事会は終始異状なく、議長は、以上をもって本日の議事が終了した旨を述べ閉会を宣した。

上記決議を明確にするため、本議事録を作成し、定款第41条の規定に基づき出席理事長及び監事が次に記名押印する。

令和7年 月 日

一般社団法人日本神経科学学会 理事会

理事長（代表理事） 山中 宏二 （法人実印）

監事 富田 泰輔 （認印）

## 日本神経科学学会会員構成

( )内は2024.4.01~2025.3.31入会者

2025年4月1日

会員種別	正会員		海外正会員		若手会員	海外若手	学生会員		海外学生会員		シニア会員
	会員数	入会者数	会員数	入会者数			会員数	会員数	入会者数	会員数	
1 分子・細胞神経科学	1,629	0	169	0	241	48	74	0	6	0	64
2 システム神経科学	1,214	0	130	0	194	62	62	0	8	0	67
3 臨床・病態神経科学	515	0	31	0	67	12	16	0	1	0	19
4 その他の神経科学	226	0	18	0	106	24	46	0	1	0	0
5 パネル不明	243	(103)	208	(109)	207	43	464	(363)	169	(125)	0
合計	3,827	(103)	556	(109)	815	189	662	(363)	185	(125)	150

2025年4月1日

会員種別	正会員		海外正会員		若手会員	海外若手	学生会員		海外学生会員		シニア会員
	会員数	入会者数	会員数	入会者数			会員数	会員数	入会者数	会員数	
学術ドメイン	会員数	入会者数	会員数	入会者数	会員数	会員数	会員数	会員数	入会者数	会員数	会員数
A Basic Neuroscience 基礎神経科学	1,526	(62)	243	(75)	302	63	398	(244)	109	(82)	63
B Systems & Information Neuroscience システム・情報神経科学	584	(19)	75	(20)	120	27	139	(88)	31	(18)	18
C Clinical & Pathological Neuroscience 臨床・病態神経科学	526	(22)	45	(14)	73	12	61	(31)	37	(25)	17
D ドメイン不明	1,191	0	193	0	320	87	64	0	8	0	52
合計	3,827	(103)	556	(109)	815	189	662	(363)	185	(125)	150

その他の会員	会員数	入会者数
賛助会員(1) 複数申込 ※	1	(0)
賛助会員(2) 1口(10万円)	11	(1)
名誉会員	20	(1)

※成茂科学 10口

全会員数	6,416
------	-------

2024.4.1～2025.3.31

■届出退会:278名 ※長期滞納による強制退会者(161名)を除く

	正会員	海外正会員	若手会員	海外若手	学生会員	海外学生	シニア	小計
1 分子・細胞神経科学	54	3	20	1	15	1	2	96
2 システム神経科学	40	0	11	2	9	1	1	64
3 臨床・病態神経科学	18	1	8	1	3	0	2	33
4 その他の神経科学	13	1	10	0	12	0	1	37
5 パネル不明	12	0	7	0	25	4	0	48
合計	137	5	56	4	64	6	6	278

(退会理由) 卒業:99名、研究分野・職種変更:81名、定年退職:32名、退職(定年を除く):18名、逝去:5名、その他:43名

日本神経科学学会会員構成の推移(2016~2025)

会員種別 \ 年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
基準日	2016/1/1	2017/1/1	2018/1/1	2019/1/1	2020/1/1	2021/1/1	2022/1/1	2023/1/1	2024/4/1	2025/4/1
正会員	5,033	4,856	4,591	4,449	4,389	4,247	4,112	4,054	3,941	3,827
海外正会員			1	230	339	461	407	451	481	556
若手会員	166	200	248	239	225	203	366	306	760	815
海外若手会員			0	18	22	29	36	39	160	189
学生会員	410	450	539	476	452	422	529	769	567	662
海外学生会員			0	16	16	11	15	61	93	185
シニア会員	17	40	73	85	101	89	115	128	132	150
准会員	182	331	266	121	0	0	0	0	0	0
賛助会員(1) 複数口(10万円)	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1
賛助会員(2) 10万円	8	8	8	10	9	7	6	6	10	11
名誉会員	21	22	21	20	18	18	19	18	19	20
全会員数	5,839	5,909	5,749	5,665	5,572	5,488	5,606	5,833	6,164	6,416